

とちぎ骨髄バンクを広める会

編集：尾内 繁夫 発行：高橋 諒

お問い合わせ先

事務局：〒327-0012 佐野市出流原町 736-6 新井 清 TEL 0283-25-0325
E-mail: kysarai@peach.ocn.ne.jp

募金・会費は、郵便振替口座番号：00300-1-12677 加入者名義：とちぎ骨髄バンクを広める会

とちぎ骨髄バンクを広める会は、(財)日本社会福祉弘済会よりボランティア共済の補助を受けています。



ひとつの生命を救うために、
あなたが出来ること。
骨髄バンクにご登録ください。



<http://www.donorsnet.net>

とちぎ骨髄バンクを広める会
会報
平成15年10月15日 発行
第96号

**無理せず楽しく
真剣に!**
平成15年度 行動指針

御礼 医療保険適用署名活動

衆議院議長宛て 5,733名

参議院議長宛て 5,469名

期間中、上記の通り署名を集めることが出来ました。

皆様のご協力に深く、感謝申し上げます。

衛生福祉大学祭 献血併行ドナー登録会

10月18日(土) 9:30~15:00 衛生福祉大学

10月19日(日) 9:30~15:00 衛生福祉大学

主催：栃木県(担当：薬務課)

広める会担当：松原地区普及広報委員、新井@事務局

栃木市健康まつり

10月26日(日) 9:30~15:00 栃木市総合運動公園内

担当：新井@事務局

リーフレット配布やペンシルバルーン作りなど

今市市献血併行ドナー登録会

10月30日(木) 9:30~15:00 今市市保健福祉センター

担当：西田地区普及広報委員

健康都市小山フェスティバル

11月2日(日) 9:00~15:00 小山県南体育館

担当：新井@事務局

パネル展示やリーフレット配布など

矢板市健康福祉まつり

11月3日(月) 祝日 9:00~15:00 矢板市役所

大田原女子高JRC部参加予定

問い合わせ：新井@事務局

第19回骨髄バンク支援栃木県民の集い

11月23日(日) 9:00~17:00 矢板市文化会館小ホール

担当：新井@事務局

以上の登録会では説明員を募集しています。

また、各イベントにおいてお手伝いいただけるボランティアを募集しています。参加していただける方は事務局までご連絡下さい。皆さんの参加をお待ちしています。

*議事録より抜粋

「骨髄バンク利用にかかる患者負担金への医療保険適用についての意見書採択を県議会へ働きかけ」

高橋代表、新井事務局2名で佐藤信議員のご協力を得て、標記請願を行いました。9月定例県議会は既に始まっているため、12月定例県議に向けて前向きに検討いただいています。

ふれあいフェスタinかぬま

9月21日(日)鹿沼市文化交流館で行われ、会場で鹿沼市青年会議所、JAかみつがのご協力を得て、献血併行ドナー登録会を開催しました。

参加者は西田さん、松原さん、塩濱さん、舟久保さん、荻原香織さん、大田原女子高JRC部生徒さん3名と小野先生、新井でした。また鹿沼市V連協の生徒さん3名と先生にもご協力をいただきました。その結果、登録者7名、前登録受付2名でした。参加していただいた皆さんお疲れ様でした。

参加いただいた大田原女子高JRC部生徒さんから感想を寄せていただいていますので、ご紹介いたします。

第6回 定例会

本年、第6回目の定例会を下記により開催したいと思います。参加は自由です。お友達(非会員)と一緒に、大歓迎です。どなたでも参加できます。参加をお待ちしております。

日時 平成15年10月23日(木)19時~2時間程度
場所 石橋総合病院 2階会議室

日本骨髄バンクの現状(2003年8月末現在)

	8月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,742	173,998	219,108
患者登録者数	172	2,262	14,828
骨髄移植例数	56	-	5,056

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります

骨髄バンク推進全国大会 2003 (松原 有紀)

風の少しある良く晴れ渡った9月28日(日)、この日の早稲田大学はオープンキャンパスで賑わっていて、大隈講堂で開催される「骨髄バンク推進全国大会2003」と相重なり活気付いていました。

13:30から始まったプログラムは2部構成で、第1部は主催者挨拶(骨髄移植推進財団理事長・高久文彦)・来賓挨拶(厚生労働大臣・坂口力/日本赤十字社社長・藤森昭一/日本さい帯血バンクネットワーク会長・斎藤英彦/日本造血細胞移植学会会長・加藤俊一/全国骨髄バンク推進連絡協議会会長・海部幸世)に続き、8月1日に達成された5000例までの軌跡報告(財団常任理事・小寺良尚)がありました。

第2部は、特別対談「わたしと骨髄バンク」と題して、ミステリー作家の横山秀夫さんとフジTVアナウンサーの菊間千乃さんのトークがあり、次にパネルディスカッション「あの時、わたしは...」がありました。

患者、ドナー、医師など骨髄バンク誕生と発展に関わった方々が、舞台上で思い出を語り合いました。

大谷貴子さんのお姉さまがアメリカから駆けつけパネラーとして登壇されていました。大谷さんの発病時の様子を家族の立場から語っておられたのがとても印象的で涙を誘いました。また、アメリカと日本の医学の進歩の差も少なからず感じさせられたお話の内容でした。

そして「記念アピール採択」と続きプログラムは終了するのですが、今回の全国大会はドナーと患者の対面が実現という流れがあったにもかかわらず、9月5日の国の造血幹細胞委嘱委員会で審議された結果、この議題は継続審議ということで今回の対面が中止となった為、会場では中止になったことに対する様々な意見交換・アンケートが熱を帯びてなされました。

患者の立場、ドナーの立場、それぞれの思いは決して一つの方向を見ているわけではないのだけれども、「対面は成されるべき」という大きなうねりが会場からはいつまでも消え去りませんでした。

果たされなかった対面が今後どのような形となっていくのかを、一ボランティアとして、しっかりと見守っていきたくと思いました。

骨髄バンクボランティアに参加して (大田原女子高JRC部)

今回初めて骨髄バンクボランティアに参加して様々な人の支えによって成り立っていることを実感しました。

先日、片岡駅前スーパーで骨髄バンクの医療保険適用請願の署名活動を行って百人位の署名が集まりました。規模の小さな活動でしたが、今回のふれあいフェスタでは規模の大きな活動で団体の大きさを改めて感じました。スタッフのジャケットを着て、自分も団体の一員になったような気がしました。パンフレットを配布すると快く受け取って下さる方が多く、まだドナー登録をする方もいて感動しました。ドナーを待っている方やボランティアの活動の思いが突った気がしました。

このボランティアに参加して、ドナー登録の様子や献血を見学でき、貴重な体験ができました。一人でも多くの人の命が助かるようにこれからも活動に参加し、多くの人に理解を広めていきたいです。